



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課
TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

❄️ 今月の話題 ❄️

- ◆ 特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」
- ◆ 令和5年産水稻生産資材の新商品等
- ◆ 令和5年資材購入に係る各奨励等の一部変更について
- ◆ 農政ダイジェスト

メモ

- ✓ 生産資材申込期日
令和5年1月31日（火）まで



11月18日にJAレーク伊吹本店で栽培統一研修会が開催されました。県農産普及課より令和4年産の稲作の概要の説明があり、栽培の基本をしっかりといただくことが重要とのことでした。

水稻生産資材に新しい商品が出ていますので、わからないことがあれば、お気軽にご相談ください。

特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」

注意！！

管内の圃場でも特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」が発見されています。拡散性が高く駆除方法が確立していない事から、農地への侵入に注意しましょう。

ナガエツルノゲイトウ (ヒユ科)



- 【来歴】
- ・南アメリカ原産の多年草。
 - ・観賞用として日本に入ってきたとされる。

- 【特徴】
- ・水草で河川や池で大群落となり、水面をマット状に覆う。
 - ・7月～10月にシロツメクサの様な白い花が咲く。
 - ・茎はちぎれやすく、節や根から活発に再生、拡散しやすい。
 - ・水陸両生なので、畔や畑にも侵入、耐塩性も高い。



農業への被害

- ・マット状に繁殖し、水の流れをせき止める。
- ・農業用排水路の維持管理作業に支障をきたす。
- ・水田除草剤の効果が低く、畦畔からの侵入や繁茂が広がると水稻の収量減少や収穫作業に支障をきたす。
- ・根絶が困難で、生育スピードが速いため、除草回数が増える。

除草方法

機械除草はダメ！！



○刈り払い機での除草は裁断された茎葉が飛散し、拡散する恐れがあるので避けて下さい。

○手取り除草・泥上げ作業

- ・地中深く入った根茎があるので、茎葉と一緒に駆除する必要があります。
- ・植物体や、植物体が混入した泥を地面に放置するとそこで根を下ろして増えてしまいます。地面と接しないようビニールで遮断するなどして枯死させて下さい。
- ・安易に裁断して畦畔に仮置きすると拡散する恐れがあるため、注意して下さい。

○薬剤防除

【畦畔】 非選択性除草剤の使用で地上部は枯れますが、地下部は残るので1～2か月程度で再生します。これを生育期間中に繰り返して行う事で徐々に衰弱することが確認されています。「ラウンドアップ」を9月～降霜期までに散布する事で効果が見込めます。

【本田】 本田内に侵入した場合、完全に処理できる除草剤は確認されていないので出来るだけ畦畔からの侵入を防いで下さい。

令和5年産水稲生産資材の新商品等

令和5年度水稲用生産資材注文書はご確認頂けましたでしょうか。今年度より新たに水稲除草剤2種類、水稲殺菌剤1種類を追加致しました。各資材の特徴などをまとめましたのでご確認ください。

水稲除草剤 ロイヤント乳剤

特にビエ、オモダカ、コナギ、ミズアオイ、イボクサ、クサネムに高い効果を発揮します。散布された薬剤は主に茎葉部で吸収されて高葉齢の雑草まで高い効果があります。ホタルイ、クログアイ、コウキヤガラなどには効果が低いのでご注意ください。



作物名	適用雑草名	使用液量	薬量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	ビエ、ウリカ、セリ マツバ、ミズガヤリ 一年生広葉雑草	100L /10a	200ml /10a	移植後20日～ビエ15葉期 (但し、収穫45日前まで)	2回以内	落水散布、ごく浅く 湛水して散布又は 湛水散布
	イソノヤマガサ モダカ、アセガヤ					落水散布又はごく 浅く湛水して散布
直播水稲	ビエ、ウリカ、セリ ミズガヤリ 一年生広葉雑草	稲3葉期～ビエ15葉期 (但し、収穫45日前まで)	乾田・落水状態で 雑草茎葉散布又は 全面散布			

水稲除草剤 ヒエクリーン豆つぶ250

ヒエクリーン1キロ粒剤の豆つぶ剤です。豆つぶ剤は1反当りの散布量が250gと軽量化されており、拡散性に優れるため移植水稲では畦からの周縁散布が可能な省力化製剤となっています。尚、拡散性につきましては風下散布でも3日後には良好な拡散を認めたデータがあります。



作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	ビエ	移植後15日～ビエ14葉期 (但し、収穫45日前まで)	250g/10a	1回	湛水散布、 湛水周縁散布
直播水稲		稲3葉期～ビエ13葉期 (但し、収穫45日前まで)			湛水散布

水稲殺菌剤 オリブライト豆つぶ

いもち病、穂枯れ、紋枯病など多くの病害に高い防除効果を示します。畦畔から豆まき感覚で散布できる省力型の製剤です。散布後は水面に浮き有効成分が拡散します。



作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	稲こうじ病、いもち病、墨黒穂病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) 紋枯病	250g/10a	出穂10日前まで (但し、収穫45日前まで)	1回	散布

令和5年産水稲用生産資材注文書の申込期限は令和5年1月31日(火)です。

資材注文についての相談は、担当の営農経済渉外へご相談下さい。



令和5年資材購入に係る各奨励等の一部変更について

資材原料・燃料の価格の高騰の情勢を受けて、早期に予約注文を取りまとめることによるスケールメリットを生かした価格設定と計画的な配送により、一層のコスト削減に取り組みます。そのため、今年度から購買品大口利用奨励の廃止と引取奨励の廃止と変更いたします。何卒ご理解とご協力をお願い致します。

①購買品大口利用奨励の廃止

年間100万円以上の肥料農薬の購入の農家を対象としていました、購買品大口利用奨励を廃止といたします。**ご注文袋数が合計で200袋以上の場合は**その対応として、別途の『**水稻資材大口注文書**』でご利用することが出来ます。『**水稻資材大口注文書**』の注文を希望される場合は営農経済渉外にご相談ください。



②引取奨励の廃止

引取奨励は廃止といたします。ただ、引取対応は例年通り行います。その際には、積載重量に十分注意して頂きますようお願いいたします。

4月以降の水稻生産資材の配送、引取り、注文は当用価格になります。3月末までの早期の計画的な配送にご協力をお願いします。また、配送は令和5年1月下旬からの予定です。配送の手順は概ね、基肥→培土（育苗資材）→除草剤の順番で予定しています。



■水稻資材注文の注意点

除草剤の大型規格、大型の箱施用剤、大型の本田防除剤の注文は返品対応は出来ません。十分に注意して注文をして頂くようお願いいたします。

ひと月の動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋

～定価（税込）618円 購読申込受付中～

22年産水稻作付面積と予想収穫量を発表

農林水産省が14日、22年産水稻作付け面積と予想収穫量を発表。主食用米の作付け面積は前年比マイナス5万2000haの125万1000haとなった。予想収量は7月～9月の大雨や台風などの影響により、前年比マイナス30万4000tの670万3000tとしている。

22年産米の相対価格発表

農林水産省が18日、22年産米の初月となる9月の相対価格を発表。生産コストの増加やコロナ禍による需要減からの回復などを受け、全銘柄の玄米60kg当たりの平均価格は前年同月比で706円高い1万3961円となった。取引合計量（玄米）は、前年同月比プラス2万1397tの15万628t。

食料・農業・農村基本法の検討始まる

農林水産省は18日に、第1回食料・農業・農村政策審議会基本検証部会を開催。約20年ぶりとなる食料・農業・農村基本法の検証と見直しを開始した。今後は月2回程度のペースで検討会を行い、23年から本格的な議論に入るとしている。

23年産主食用米の予想生産量は669万t

農林水産省が20日に開催された食料・農業・農村政策審議会食糧部会で23年産主食用米の生産量を前年比マイナス1万tの約669万tと予想した。同省は価格維持のため在庫状況や販売の見通しを踏まえた作付け転換を今後も勧めていくとしている。